



生育目安・目標	適正な栽植密度			収量構成のめやす			目標収量																				
	作型	10a 苗立本数	単作	作型	m ² 当たり株数	1株当たり莢数	m ² 当たり莢数	百粒重	目標収量																		
	10a 苗立本数	15,000本	単作	15株	37莢	550莢	39g	350kg/10a																			
時期	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月								
作業名	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上								
	排水対策			除草剤散布 耕起・施肥・播種 種子準備			中耕培土			開花期			病害虫防除③			病害虫防除④			青立雑草除去!!			コンバイン収穫			土づくり		
	★石灰・堆肥散布 ★周囲明渠 ★弾丸暗渠 ★耕起前除草			★種子消毒の徹底 ★鳥害対策の実施 ★裂皮防止のため、播種はできる限り6月から!!			【第1回目】★子葉節まで 【第2回目】★初生葉節まで 培土高15cm以下			★ウコンノメイガ・アブラムシの防除 ★適期・適量散布を厳守 ★必要により畦間除草剤散布 ★明渠等の点検・整備で湿害回避			★適期・適量散布を厳守 ★ほ場周辺へのドリフト防止のため、液剤対応 ★開花期は、エンレイよりも2~3日遅い			★適期・適量散布を厳守 ★ほ場周辺へのドリフト防止のため、液剤対応 ★開花期は、エンレイよりも2~3日遅い			★収穫の晩期：成熟期より15日頃まで ★刈取時間帯：11時~16時頃								

【排水対策】
 ・ 消雪後、出来る限り早期にほ場の排水対策を実施する
 ・ ほ場周囲の明渠（排水路につなげる）・弾丸暗渠
 ・ ほ場の団地化、耕起前除草剤の散布
 ポイント…降雨後、地表水を24時間以内に排除する

【土壌改良・基肥】（10a当たり）※地力により増減する
 ・ 土づくり 有機物の投入（ケイフン等）
 ・ 酸度矯正 マグクリン 60kg
 ・ 基肥 ワンタッチ大豆（緩効性肥料）30~50kg
 国産化成肥料14-14-14 9~24kg
 有機入り大豆配合2号 15~30kg

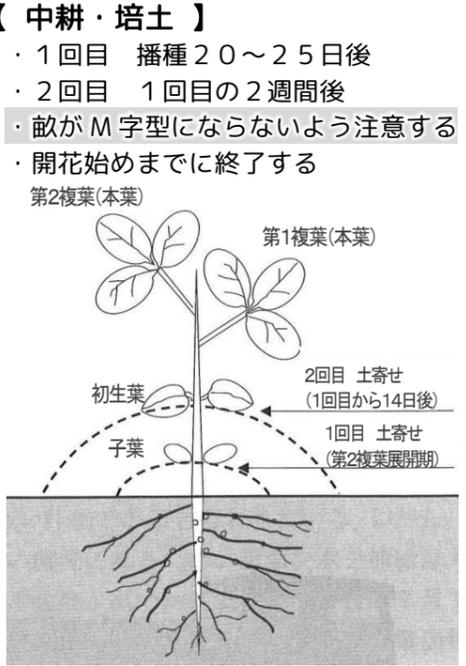
【追肥】（10a当たり）
 ・ 湿害による黄化や生育不良などが見られた場合は、速効性肥料により培土時または開花期に追肥する
 ・ 地力の低いほ場や連作ほ場は、しわ粒の発生軽減と増収のため、緩効性肥料により2回目培土時に追肥する（ただし、基肥に緩効性肥料を施用した場合は重複施用しない）

※ルートピース種子塗沫処理（種子1kg：8ml使用）*ルザー前に処理

【種子準備】

薬剤名	薬剤量(1kg)	対象病害虫
クルーザーMAXX	原液8ml塗沫	苗立枯病、紫斑病、茎疫病、黒根腐病、アブラムシ類、蚜虫、ネキリムシ類、フタジヒメムシ、ハ、キジバト

・ 播種量 単作 4.5~6kg（9~12本/m）6月上旬
 ★排水条件の悪い場合…
 →『畝立播種栽培』で発芽・苗立ちを安定させる



【除草剤散布】 周辺作物に飛散しないように注意する！ 令和5年3月31日現在 7/17農業総覧 2023 確認済

時期	薬剤名	薬剤量(10a)	備考	
耕起前 播種前	ラウンドアップ マックスロード	200~500ml	水量 50~100ℓ（耕起前または出芽前まで）	
	タッチダウンIQ	250~500ml	水量 25~100ℓ（耕起または播種7日前まで）	
播種後	覆土直後	クリアタン細粒剤 F 4~5kg	一年生雑草	
	出芽前	クリアタン乳剤 500~800ml	一年生雑草 水量 70~100ℓ	
	出芽直前~生育期	プロールラス乳剤 400~600ml	一年生雑草 水量 70~150ℓ	
雑草生育期	全面畦間処理	パワーガイ液剤 200~300ml	一年生雑草 水量 100ℓ（雑草発生前期~2葉期 但し収穫30日前まで）	
	全面畦間処理	ボルトフロアブル	200~300ml	一年生イネ科雑草 水量 25~100ℓ（雑草生育期~収穫30日前まで）1回
		ワザイトP乳剤	75~100ml	一年性イネ科雑草 水量 25~100ℓ（雑草生育期~収穫60日前まで）1回
		大豆バサラン液剤	100~150ml	一年生雑草(イネ科除く) 水量 100ℓ 開花前まで(収穫45日前まで) 1回
	畦間処理	ラウンドアップ マックスロード	200~500ml	一年生雑草 水量 50~100ℓ（雑草生育期~収穫前日まで）2回以内
		タッチダウンIQ	250~500ml	一年生雑草 水量 25~50ℓ（雑草生育期~収穫前日まで）2回以内
		ザクザク液剤	300~500ml	一年生雑草 水量 100~150ℓ（雑草生育期~収穫28日前まで）3回以内
土壌	バスタ液剤	300~500ml	一年生雑草 水量 100~150ℓ（雑草生育期~収穫28日前まで）3回以内	
	ダインゾル	100~200ml	一年生雑草 水量 100ℓ（雑草生育期~収穫30日前まで）1回以内	

【病害虫防除】 周辺作物に飛散しないように注意する！

区分	時期	対象病害虫	薬剤名
基幹防除①・②	7月第2半旬~8月第1半旬 * 葉色が濃く、ウコンノメイガが発生しやすい	ウコンノメイガ	プレバソンフロアブル5
		アブラムシ	スミチオン乳剤
基幹防除②	8月20日~25日頃 (開花期4週間後頃)	紫斑病	アミスター20フロアブル
		地上防除 子実害虫	トレボン乳剤
基幹防除③	8月第5半旬~9月第1半旬	マメシクイガ等	アミスタートレボン SE
			プレバソンフロアブル5 アディオン乳剤

ポイント…開花期や病害虫の発生状況を把握し適期防除、薬剤が株元までかかるように丁寧に散布する

【刈取】

- ・ 黄葉期から成熟期までの期間が長い為、成熟状況を定期的に確認する
- ・ 完全に落葉し莢が褐色になった頃が成熟期 試し刈りを行い汚粒や損傷粒の発生状況、子実水分等を確認してから適期に刈り取る
- ・ 汚粒防止のため、雑草や青立ち株を取り除く

汚粒の発生しやすい時刻は収穫を避ける
 刈り取り高さ・土砂の掻き込みに注意する
 適期刈り取りに努める

【乾燥・調製】 共同乾燥調製施設へ搬入する

※ 農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認の上、適正・安全に使用して下さい。